

# NEXT CARE REPORT

## DATA

デイサービスリゾート  
そまみどり  
袖緑

●兵庫県姫路市書写 28

TEL 079-268-3456

URL e-akane.com/facilities/somamidori



施設責任者の榎谷尚彦さん

# リゾート気分満載の おもてなしを提供 健康で笑顔あふれる 生活を支援する

介護福祉施設、認可保育園、サービス付き高齢者向け住宅等を運営する社会福祉法人あかねが運営するデイサービスリゾート袖緑。広大で緑豊かな敷地と庭、露天風呂のある天然温泉など、リゾート感あふれる環境のなか、職員一丸となって“夢のある生活”を送れるサービス提供に努めている。

(取材・文/堀切孝治)

## Next Point 01

広大な緑豊かな庭に季節ごとの花が咲く立地で、リゾート感を味わえる環境を提供

## Next Point 02

夜間に入浴したい、生活リズムを変えたくないという利用者ニーズに応えるナイトサービスを実施

「自分の親に薦めたい」と思えるサービスを追求

2004年開設のデイサービスリゾート袖緑は1万2000坪の広大な敷地を活かした、まさにリゾート地のような雰囲気、多くの利用者が豊かなひと時を楽しんでいる。同施設のモットーは「自分の親に薦めたい」サービスの追求。「我々スタッフはもちろん、ご家族も自信をもって親に薦められるようなサービスの提供を心がけています」と施設責任者の榎谷尚彦さんは話す。

◀敷地内にある桜並木。散歩を楽しむ利用者も多い



袖緑の特徴は、まず広い芝生広場、散策道を備えた緑豊かな環境。グループウォーキングやパターゴルフといったアクティビティがあり、利用者は自分の好きなときに散策している。施設内の木々や花は、1年中どの瞬間を切り取っても美しい。

い景観を映し出すよう配慮。春には、梅、河津桜、陽光桜などが順番に花を咲かせ、背後の山の山桜と一体となった絶景が広がり、秋には、木々の紅葉が見事に映える。次に来たときにはどの花が咲いているかと、利用者は生きる楽しみをもって毎日を過ごしている。「一瞬一瞬を大切にしながら、ただただのよう気を配っています」と榎谷さんは強調する。

風呂は岩風呂、檜風呂、源泉かけ流し露天風呂など5種類もの温泉を用意し、車いすの人や特浴機での入浴にも対応。日ごろ入浴に気が進まない人も旅行気分に入浴でき、充実した温泉が気に入って利用を決める人も多いという。さらに、入浴中に外の道路や民家などの構造物が目に入らないようレイアウトを工夫し、リゾート感を高めている。

▶緑豊かな環境でパターゴルフに興じる



▲源泉かけ流しの天然温泉。露天風呂など5種類の温泉がある

専用レストランで提供される食事は料亭経営者が調理に関わっており、味はもちろん、盛り付けや器といった見た目にもこだわっている。自社農園で育てた農薬不使用の野菜を使い、健康に配慮した安心・安全な食を提供している。

**一人の不安・不便を解消する  
ナイトサービスを実施**

100歳まで歩けるリハビリを掲げ、個別のヒアリングや健康測定によって利用者一人ひとりの課題を分析してメニューを考え、筋肉量維持や転倒予防、麻痺・拘縮の改善などにも取り組んでいる。たん

なる機能向上ではなく、利用者とともに具体的な目標・夢を描いてリハビリを進めている。「ベッドから一人で立てるようにしたい」「電車に乗って神戸の孫に会いに行けるようになりたい」など、叶えたい夢があることよって、リハビリにも張りが出て、効果も上がりやすい。

多彩なアクティビティも緑の特徴だ。社交ダンス、囲碁、カラオケ、絵画など50種類以上あり、季節特有のイベントも含めると100種類以上。一番人気は書道部で、そろばん部や漢字検定部も人気がある。部活動の運営についてはスタッフだけではなく、利用者

も準備や片づけ、次回の企画などを行うことにより、主体性と役割意識を高めている。また、利用者数人で「お助け隊」を組織し、食器洗いや配膳などのお手伝い、新規利用者の案内などを担っている。このように身体的、機能的な健康だけでなく、社会参加の仕組みをもつことで、どんな人でもやりがいや生きがいを感じることができ。平日定員160人の大規模施設のため、気の合った仲間を見つけるチャンスも多く、利用者は仲間と交流し、楽しく時間を過ごしている。IADL向上訓練として施設外での活動も積極的に実施。スーパーでの買い物やレストランでの食事など、ひと月に35回以上行っており、楽しみながら機能向上できている。

17時15分〜20時30分のナイトサービス(定員40人)も提供している。レスパイト目的の利用を想定して始めたが、蓋を開けてみると、夜にデイサービスで食事・入浴をしたい、日中は家の近くでの活動を継続したいなど、生活リズムを変えたくないと考える高齢者の利用が多かった。夜間に一人で食事

や入浴することに不安・不便を感じている高齢者のニーズにも応えている。

利用者の自主性を重んじて自由に過ごしてもらうことを打ち出している。利用者には介護度が高い人もいるため、いかにスタッフの目を届かせるかには工夫している。たとえば、同時進行する4つのプログラムに4人のスタッフを配置するとき、2人が4つのプログラムを担当し、残りの2人は1対1の対応が必要な利用者を車いすで散歩させるなど、シフトを組む段階で決めている。また、各スタッフが利用者5〜10人の担当となり、健康状態、利用プラン、利用状況など利用者情報の把握・連絡を怠らないようにしている。

地域との交流では、これまで感謝祭やフリーマーケット、子ども介護教室など、施設に住民を招く活動を行ってきた。「これからはスタッフの外に出て、駅前清掃や歩道の手すりのペンキ塗りなどを地域の方々と協力して行い、まちの幸せにつながる施設づくり、運営をめざしたいと考えています」と榎谷さんは抱負を語った。